本邦製鐵事業振興策調査書

第一項

本邦に於て一ヶ年間に使用する鐵鋼材

（數量、種類、價格並に供給國別）

一、本邦に於ける鐵鋼材需用額

本邦（朝鮮、臺灣を除く）に於ける一ヶ年間の鐵材需用額を知らんには、本邦生産の鐵鋼材及ひ國外より輸入したる鐵鋼類の、總額を加えたるものより輸出したる額を引去りたるものを本邦に於ける一ヶ年間の需要額と見做すへきものなり。

下に大正元年二年三年度に於ける、鐵鋼類、機械類の輸入額及ひ上記各年度に於ける、內地製鐵鋼材の想定生産額を掲くれは。

（千圓以下四捨五入）

品名	大正三年度 數量	大正三年度 價額	大正二年度 數量	大正二年度 價額	大正元年度 數量	大正元年度 價額
輸入鐵鋼類 銑鐵鋼竿	五七〇、〇〇〇 瓲	四四、三七四、〇〇〇 円	八〇一、六〇〇 瓲	六六、七三九、〇〇〇 円	八五七、〇〇〇 瓲	六九、三九六、〇〇〇 円
輸入鐵鋼類 鋼板建築材						
輸入鐵鋼類 線材鐵管其他						
輸入車輛船舶機械		一、三二、四七六、〇〇〇		一、四七、七八九、〇〇〇		一、四一、三九一、〇〇〇

其他鐵製品類	—	—	—	—
輸入兵器軍艦等	—	—	—	—
陸海軍特別輸入品	三、三三六、〇〇〇	二九、四七九、〇〇〇	一六、三八六、〇〇〇	
小計	三五、八一二、〇〇〇	七七、二六八、〇〇〇	五七、七七七、〇〇〇	
合計	八〇、一八六、〇〇〇	一四四、〇〇七、〇〇〇	一二七、一七三、〇〇〇	
本邦自製鋼材	二七、〇〇〇、〇〇〇(推定)	二七、〇〇〇、〇〇〇(同)	二七、〇〇〇、〇〇〇	

今大正二年度に於ける需用額を調査せんに、同年度本邦輸入鐵鋼及機械類の價額は一億四千四百萬圓餘となる、尤も此中製品として輸入せる機械船舶兵器類の價額約七千七百二十六萬圓餘は之れを原料鋼材に換算せは約一千八百萬圓となるを以て、鐵鋼材としての輸入額は八千四百七十萬圓餘となり之れに本邦自製の鋼材約二千七百萬圓を加ふれは一億一千百七十萬圓餘となる、而して同年度本邦より輸出の鐵鋼材は

品目	大正三年度 數量	大正三年度 價額	大正二年度 數量	大正二年度 價額	大正元年度 數量	大正元年度 價額
鐵管、屑鐵	約九、八〇〇瓲	三七一、〇〇〇円	九、六〇〇瓲	三九九、〇〇〇円	七、六〇〇瓲	二八五、〇〇〇円
機械鐵製品其他	—	三、七三七、〇〇〇	—	五、〇四四、〇〇〇	—	四、〇七三、〇〇〇
合計	—	四、一〇八、〇〇〇	—	五、四四三、〇〇〇	—	四、三五八、〇〇〇

上表示す如く五百四十萬圓餘となり、此中機械類五百四萬圓餘は之れを鋼材價額に見積れは約百二十萬圓となるを以て、輸出鐵鋼材は百六十萬圓となり、上記輸入並に自製の鐵鋼材合計一億千百七十萬圓より、輸出の百六十萬圓を差引きたる約一億一千十萬圓は、大正二年度に於ける本邦使用鐵鋼材價額と見做し得へく、而して此一億千十萬圓の鐵鋼材は數量に於て百三十萬瓲に相當するを以て

大正二年度に於ける鐵鋼需用數量は凡百三十萬瓲內外とす。

同樣にして大正元年度の需用額は本年度に於ては鐵鋼類、機械類全般を通し、輸入額は大正二年度に比し約一千六百八十五萬圓を減せるも、鐵鋼類の輸入額は却て約二百六十五萬圓を增し加工品たる機械車輛額に於て千九百五十萬圓を減せるにより、此減額を鋼材に換算して四百五十萬圓とすれは差引鋼材としての輸入額は大正二年度に比し約百八十五萬圓を減し約八千二百八十五萬圓となり、之れに內地製鋼材二千七百萬圓を加ふるときは一億九百五十萬圓となり輸出鐵鋼材價額(前同樣にして假りに百二十八萬圓と見積れは)を差引きたる約一億八百二十萬圓を以て、同年度需用額と見做し得へし使用數量も大正二年度に比し二萬二三千瓲を減せるに過きす。

然るに大正三年度に於ては輸入鐵鋼材機械類を合し八千萬圓に下り、此中製品たる機械船舶類三千五百八十萬圓を鋼材としての價額八百五十萬圓とすれは、鐵鋼材輸入額は五千三百萬圓となり、本邦製の鋼材を二千七百萬圓と假定し之を加へたる八千萬圓より輸出鐵鋼機械類四百十萬圓中、製品たる三百七十萬圓の原料鋼材としての代價を九十萬圓と見做し、結局輸出鋼材百二十七萬圓を差引けは、約七千八百七十萬圓此數量約九十三萬瓲は大正三年度使用量と見做すとを得へし、之れに依て最近三ヶ年に於ける需用額を比較せんに、大正一、二年度の需用額は略ほ相匹敵すれとも大正三年度に於ては上記兩年度に比し數量に於て約三十七八萬瓲價格約三千萬圓以上の需用減少を來せる理なり、之れ一は大正三年度に於ては陸海軍特別輸入鋼材類の減少せるに因るならんも、又同年度末に於ける歐洲戰亂の勃發により延て船腹の不足を來せると、一方諸外國の鐵材輸出の制限特に本邦に對する鐵材の大供給者たる獨逸國の製品輸入杜絕となり、本邦企業界の沈滯も又其因をなせるものなるへく而も之れ一時的現象に外ならさるを以て、要するに現時一ヶ年間の我國鐵鋼材使用額は百三十萬瓲內外一億萬圓以上と見るを至當とす。

輸入銑鐵中に輸入後本邦製鋼原料に供せらるゝものあれは、正確なる需要額の計算は先つ此種銑鐵の數量を究め輸入額より差引くへきものなるも、取調困難にして且つ其數量も多しと云ふにあらされは大體の計數としては輸入額と生産額との合計を以て需用額と見做し差支なきか如し(大正二年度に於て此種輸入銑鐵は約六萬瓲ありたり)。

二、鐵鋼類機械類の主たる供給國別

大正二年度に於ける鐵鋼類の主たる輸入國別

第一項　鐵鋼類總輸入額六六、七三九、〇〇〇円

國名	金額(千圓以下四捨五入)	割合(百分率)
英吉利	二六、三二九、〇〇〇円	約三九、五
獨逸	一六、八三〇、〇〇〇	二五、二
北米合衆國	一〇、七一二、〇〇〇	一六、〇
白耳義	四、二三五、〇〇〇	六、三五
英領印度	二、九五八、〇〇〇(主として銑鐵)	四、四三
瑞典	二、一九九、〇〇〇	三、三
支那	二、〇七七、〇〇〇(主として銑鐵)	三、一一
墺地利	五八五、〇〇〇	八七
佛蘭西	二七二、〇〇〇	四〇
伊太利	一七七、〇〇〇	二七
關東州	一四五、〇〇〇	二二

其他は丁抹の約四萬二千圓、和蘭及海峽殖民地の各二萬四千圓、香港一萬九千圓英領亞米利加の一